

## 『後世に残したいラオスの伝統と文化』

クアワン パンニャヴォン

ルアンパバーン県 サンティパーブ高校



私達の国ラオスは、昔から先祖が築き上げ、今日に至るまで継承してきた素晴らしい伝統文化、慣習をもった国の一つです。後世の者達は、この大切な私達の文化がラーンサーン（百万の象）の国にいつまでも残るように、守り発展させていかなければなりません。一つの国家である私達の国、ラオスの伝統慣習について語ることはとても大切なことだと思います。

文化は国家の性質を表すものであり、私達の国ラオスも、素晴らしい文化を持っている国の一つです。それぞれの国は、人々に、自分がどこの国民なのか、どの民族なのかを知らせる手段として、自国のアイデンティティーといえる言葉を持っています。また、文化は、私達の日常の暮らしに根ざしており、社会の形を映し出しています。私達ラオス人は、ラオス人や語り継がれてきたラオスの文化を世界の人々に知ってもらうためにはどのようにすれば良いのでしょうか。

ラオスの素晴らしい文化は、様々な祭りや慣習の中に生きており、私達にその姿を見せてくれています。例えば、ラオ・スーン（高地ラオ人）の新年祭、ラオ・トゥン（山腹のラオ人）のラオハイ（地酒）祭、ラオ・ルウム（低地ラオ人）の新年祭、ロケット祭、ブン・パヴェート（大生経祭：従来、旧4月に寺で催される大読経祭。在家は飾りつけや供え物をする）などがあります。毎年、それぞれの民族はこれらの祭を彼らの暮らす地域で繰り広げます。これらは、ラオスの文化を表すものであり、自分達の祭を心から楽しんで祝うのです。文化を大切に作る気持ち、喜びが溢れています。

これ以外にもラオス人が持っている品位や礼儀正しさ、上品な話し方など、ラオスの文化は様々な場面に見ることができます。例えば、ラオス的な着こなしです。ラオス人女性はシン（巻きスカート）を身に着け髪を束ね、パービエン（ストール）を肩にかけ、男性は髪を短く切りキチンとズボンをはきます。また、ラオス人は親切で寛容であり、どこに行っても食べ物に困ることはありません。「家でケーン（ラオス民族楽器の一つで笙の仲間）を聞きながら塩辛でもち米を食べればラオス人である」という言葉もあります。本当にラオス人は平穏に楽しく暮らすことが好きで、先祖が作ったヒート・シップゾーン（毎月の行事）、コーン・シップシー（人々や役人、夫婦などが守らなければならない決まり）という慣習を守っています。また、手足や頭脳を男性は竹細工や土器造りに、女性は刺繍や絹織物を作ることに活かしており、ラオス人の中には勤勉さや技巧的な才能といった血が流れているのです。

このような自国の文化を語る時、このラーンサーンの国に生まれた私達は、その文化を継承し、より発展するよう協力していかなければなりません。それは、将来の国の知識ある継承者と小さな芽である私達みんなに託されているのです。発展を構築する知識や能力、才能を持った者というのは、国家の運命を決める私達若者であり、その血統の継承は、将来に向かって発展させていかなければなりません。

私達は、ラオスが開発途上国であることは分かっていますが、文化に関して言うならば、それは誰に対しても決して遅れをとるものではありません。例えば文化的な遺跡ですが、ビエンチャンのタートルアン、チャムパーサックのワットプーなどがあります。また、私の故郷、ルアンパバーンの町は世界遺産として世界中の人々にその名を知られており、誰もが訪れたいと思っている所なのです。町にはワット・シエントーンやタートチョームシーなどの遺跡があります。ラオス人である私達はみんな、この世界遺産の町が私達とずっと共に在るように守っていかなければ

ばなりません。私はこの世界遺産となった私の村がある母なる国、ラオスに生まれたことを誇りに思っています。

私はこの歴史的な文化の血統を少しずつ発展させて行こうと思います。私達は、私達の国が帝国主義国の侵略を受け、植民地となったこと、彼らが腐敗した文化を持ちこみ、広め、ラオスの若者に従わせ墮落させたことを知っています。未熟なラオスの若者は、彼らの企みを信じさせられ、そして、その時代にラオスの文化は、衰退し中途半端なものになってしまったのです。そのような中で、国家を、故郷を愛する心ある人々は、1975年12月2日、完全な解放を受け入れ、私達は、ラオスが主権を持った完全な一つの国家となったことを知りました。国が解放されて以来、全てのラオス人は平等の権利を得、党と政府は国家の発展に力を注ぎ、教育及び保健のネットワークを拡大し、広く行き渡らせてきました。文化についても同様なことが実行されました。だから、後から生まれ育った私達は、国を守り発展させより豊かにするために、その血統を日常の生活の中に継承していかなければならないのです。

私達の美しい文化が私達とずっと共に在るように、みんなが助け合ってそれを守り、発展させて行きましょう。学生である私自身も、私達の文化の血統を受け継ぎ、私達の文化が後世にいつまでも残るよう守っていきます。